・き・れ・い・に・暮・ら・す・

# 奈良県スタイルジャーナル

vol.6
October
2018

～奈良らしい景観を目指して～

NARA PREFECTURE
奈良県

一般財団法人
# 22世紀吉野桜を愛でる会

## 桜の持つ本当の意味を伝える

金峯神社近くの修行門と献木桜

**桜には、人と、心のつながりがあります**

吉野の自然と歴史を守り、人工林の植林や自然災害などで減少する「奥千本」の桜の再生を目的に活動する「22世紀吉野桜を愛でる会」は、これまで約2、000本の桜を植え、今後も長尾山に10ヘクタールもの植樹をする計画が進められています。

一般財団法人
22世紀吉野桜を愛でる会
**平　典子**氏

「ずっと昔は、あちらこちらで桜の苗が売られ、それを観光客が買って“植えといてください”と頼まれて植えた、そんなつながりが千本桜を生んだのです。」

これほどの活動規模から、会の歴史が長く吉野と大きな関わりがあると思われますが、代表理事の平氏によれば設立は平成21年6月と若く、会を立ち上げた前代表理事は関東出身だといいます。

「仕事が一段落してやりたい事を考えた時、縁が有った吉野の美しい桜のことを思い出されたようです。そこで私の父親が〝桜を植えてもいいよ〟という地主さんを紹介したのが始まりです。結果、金峯神社近くの修行門周辺に桜を植えることができました。」

観光のイメージが強い吉野の桜ですが、総本山金峯山寺では桜をお供えするなど吉野の人には「献木」として馴染みがあり「桜は日本の原点」という人もおられますが、そんな神聖な桜に前代表理事も惹かれたと平氏は話します。

しかし〝本当に奥千本に千本も桜があるのか〟と問われたことがあり、〝ならば、ちゃんと千本にしよう、桜がないところにも植えよう〟と前代表理事が考え、会を財団法人にして活動を本格化させたといいます。吉野の桜には、美しさだけでなく人と、心のつながりがあり、会の活動はそんな桜の本当の意味を後世に残す大きな役割を担うといいます。

植樹作業

献木桜に取り付けられたプレート

**思いが宿る桜だから**
**手間と愛情を惜しみなく注ぎ育てます**

奥千本に植える桜、それは「献木」として個々の思いや願いを込めて植え、その成長を見守っていただくためといいます。

「桜にはご家族のご結婚やお孫さんのご誕生、結婚何周年記念など様々な理由や思いが込められています。献木というと宗教心や信仰心が必要と思われますが、桜や吉野のため、家族や大切な人のためにという純粋な気持ちだけで十分なのです。」

献木をするとメッセージと氏名が書かれたプレートを桜の支柱に付け、植樹の際の写真や植樹場所の案内地図、GPSデータも提供され、献木者が桜の成長を把握できるようにします。

「献木の募集をすると全国から応募がくるので、どこに自分の桜があるかを分かってもらえるようにしています。応募は北海道や関東からが多いですね。」

植樹後は〝苗の成長の様子を教えて〟という手紙が届いたり、実

際に桜の成長を吉野まで見に来られたりするなど、献木者はもちろん、まわりのご家族も、桜に深い愛情を持ってくださるといいます。「様々な思いが込められた桜ですから、責任を持って苗の世話や管理をしないといけません。」

## 圧倒的なスケールで桜の世界をつくりたい

10ヘクタールもの土地の整地、苗木づくり、植樹後の桜の維持・管理など、活動の規模が大きく、多岐にわたります。そのため、ベテラン桜守さんや森林組合と連携をとりながら活動をしています。

「サクランボ（種）拾いから始まり、植樹は苗を5～6年育ててからになりますし、その間も獣害や天候の問題があることから桜や山の事を知り尽くした人の経験と知識が不可欠です。桜守さんと森林組合の協力は本当にありがたいですね。木々の見回りをはじめ天候を見ながらの桜の育つ環境づくりといった、私たちには真似の出来ない知恵と工夫で桜の成長を日々見守ってくれます。」

また会は桜の育成だけでなく、吉野の象徴といえる「金峯山寺蔵王堂」と桜を通じてつながりがあることから、竹林院、櫻本坊、喜蔵院、東南院が集まり吉野桜再生と献木された方々の幸せを祈願する護摩法要「蔵王讃仰・桜の大護摩供」を執り行い、桜が生む「絆とつながり」も大切にされています。この4寺院が集まっての護摩法要は【歴史上初】で、第1回は献木者やそのご家族等約300人が参加され、今年で4回目を迎えます。

献木された方の名簿から、様々な思いが溢れます。

「花が咲くまで約10年かかりますから、その間、献木者の皆様は楽しみに待たれます。そんな壮大なものですし個々の思いも深く大きいものですから、圧倒的なスケールで桜の世界を築き再生したいです。」

## 吉野の自然と山も守りたい

活動を通して平氏は、桜だけでなく吉野の山や自然にも危機感を持ったといいます。「最近は材木の需要が減少していることから林業従事者が年々減っています。すると山や自然を守る知恵の伝承ができないのです。今、中心となって植込みや管理をしてくれているのが84歳の桜守さんで、長年、山と向き合ってきたからこそ生まれる『知恵』を豊富にお持ちで、〝この山はこうしないといけない〟〝切った後はこうした方がいい〟と分かることがたくさんあるといいます。そう考えると林業に携わる人が減る現状で、作業の経験はあっても、そこまで入り込んだ知恵を持っているかとなれば難しいことですし、今教えてもらわないと、という感じはしています。自然相手ですから、いかにマニュアル以外の事を知っているかが大きいのです。」

実際、風の強い長尾山では密植することで真っすぐ育たせ、更に木の下に影ができるため雑草が生えにくく草刈りの手間も省け、無駄な費用や手間のかからない植樹を考えてくれています。今後、後継者の確保と育成を進めていくことが重要になります。「会がどうこうではなく、山全体を見ていかないと会も活動も続けられません。原点は〝自然に手を合わせる感謝の気持ち〟。その気持ちが吉野の桜や自然をどう守っていくかを考える意識と行動につながります。」

会の桜や吉野を思う気持ちがある限り、様々な人の思いが託された桜は途絶えることなく、これからも吉野の地で咲き続けることでしょう。

今春見頃の献木桜

NPO法人

# 山野草（さんやそう）の里づくりの会

## 自然を学び、守り、伝えます

赤い花のそば園

### はじまりは意外な出会い

山野草の里・三谷は標高350～500ｍの桜井市東北部、大和川の本流源流地域で大和高原の一角に位置しています。1970年頃まで農林業の営みの中できれいな里山の景観が保たれ、多くの動植物が人と共生・共存していました。しかし、農林業の不振により離村が進み、田畑や山林の管理放棄地が拡大し里山に生息する山野草・昆虫は激減しつつありました。

会の立ち上げは意外なものでした。19年前、芳原和夫氏（副理事長）が一家で桜井市の笠山荒神のそば処に出かけた際、道に迷い助けを求めたのが大学時代の友人で三谷在住の福岡定晃氏（前理事長）です。このとき、福岡定晃氏の村おこしの話に意気投合され、奥様や友人とともに三谷へ通い始めたそうです。これが、後に「山野草の里づくりの会」結成（2001年）へと発展し、結成2年目にはNPO法人化しました。

NPO法人
山野草の里づくりの会
**村上 秀夫** 氏

「里山では、イノシシ侵入の多発、ナラ枯れ発生等、毎年予定外のことが起こります。対応に資金の必要な場合もあり、なかなかやりくりが大変です。」

### 活動の始まり

地域の自然環境を守るために、「自生山野草の調査及び維持管理」「放置水田、畑及びその周辺のクロガリ（農地に隣接した山林の一部）等の維持管理活動」「農業用水路や農道の復旧、管理活動」等に取り掛かりました。その後、会員やボランティアの方々とともに地域住民も加わり、竹等で覆われていた農地の復旧等にも取り組みました。

### その後の活動

参加者の増加とともに復旧を要する土地も増え、特に自生山野草の調査に関わることが困難になりました。福岡夫妻や芳原氏が学んだ「大阪シニア自然大学校」から応援してもらえないか相談したところ、サークルの一団体なら可能との答えをいただきました。当大学校での同窓生などに声をかけ2008年「里山の山野草を守る会」を結成することができ、この会に「自生山野草の調査及び維持管理」を任せることになりました。

### 日本の代表的な里山の一つに

当初、会の活動日は週1回でしたが、活動の広がりとともに平成17年4月以降は毎週水曜日・土曜日の週2回になりました。活動場所は、桜井市三谷528番地の事務所を拠点に、三谷地区内と一部小夫・小夫嵩方（おおぶ・おおぶだけほう）地区を含めたエリアです。自然環境が一番よかったと言われる昭和30年代に近づけようという目標を持ち、里山林の整備、クロガリ整備、遊休農地を利用した果樹園づくり等、地域住民とも連携し、三谷地区・山野草の里の景観づくりの活動を続けています。

里山の自然を守るため、「持ち込まない。持ち出さない。」にこだわり、炭焼きをしたり、古代米を農薬や化学肥料を一切使わず自然に近いかたちで育てたりといった地道な活動に大勢の方が取り組んできました。また「里山の山野草を守る会」の協力や、奈良NPOセンター、国・奈良県・桜井市、多くの企業からの支援も頂き、里山づくり事業が大きく進展しました。

その結果「山野草の里」は、2015年12月に環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定され、日本の代表的な里山と認められるようになりました。

会で取り組んだ事はパンフレットや冊子にして発信します。

## 資金面、人材面の問題解決に取り組まなければ

イベントの開催や、里山づくりで問題となるのは、やはりお金と人のことだといいます。「資金に関しては、まだまだ助成金に頼らざるを得ないのが現状です。保全活動を行うボランティアの問題はもっと重要です。現在は70歳代の方が活動の中心ですが、定年退職者だけでなく女性や現役世代の方の参加が大事です。2017年から、奈良森林インストラクター会・奈良NPOセンターのご協力を得て『里山保全ボランティア養成講座』を開催し、里山保全活動のきっかけづくりを始めました。受講生から里山保全活動に参加する人もあります。団塊の世代から次世代が中心の活動に変わっていく必要があります。活動を魅力あるものにすること、リーダーを養成することが課題です。」

## 里山づくりの活動の継続を目標に

現理事長・村上秀夫氏は、7年前に「ホタルの夕べ」に参加したことがきっかけで三谷へ通うようになりました。平成27年に福岡氏が体調悪化により理事長を退任され、後任理事長を引き受けました。

ホームページに活動趣旨を掲げていますが、里山保全に関心のある方は、誰でも活動に参加できるといいます。実際、村上氏は大和高田市、芳原氏は東大阪市、そのほか奈良市、宇陀市、香芝市、橿原市、五條市、吉野郡等からマイカーで参加されています。しかし村上氏は地元・桜井市からの参加が少ないことが少し残念ともいいます。「地元三谷地区も過疎が進んでいます。ご高齢の方は三谷に住み農業を続けていただけるだけでありがたく、里山保全の活動とともに地元の方とのつながりを深めていければと思います。」

先輩の皆さんが切り開き再生させた「山野草の里」は、日本の代表的な里山の一つに数えられるようになりましたが、放置すればあっという間に20年前の荒れた姿に戻ってしまいます。

この里山の景観、自然環境を残せるように活動を継続していきたいと村上氏はいいます。

山野草の里といわれる桜井市三谷を拠点に活動しています。

## 農地の復旧と活用

田植え

花の宴　そば園にて

農地に隣接した土手で農地から約5メートルの高さまでの部分をクロガリといい、農地所有者に管理義務があります。このクロガリは山菜や山野草の宝庫で、この環境を維持するには年数回の草刈りが必要です。急傾斜地で作業しづらく、多くの時間を要します。遊休農地が発生すると、隣接するクロガリ、農道、水路の管理が行われず、その地に咲く花を好む昆虫類も棲まなくなります。私たちは、農地の復旧に努め、「赤い花のそば」「古代米」「花菖蒲」の栽培、「果樹オーナー園」として活用しています。

クロガリ整備の作業

稲刈り、稲架かけ

**■ハヤトウリ・三谷の黒米**
山野草園内の畑で自然栽培したハヤト瓜を橿原市のお漬物屋さんの協力を得て、コラボ商品「ハヤトウリ奈良漬」にして販売。三谷の黒米は毎年約 40 キロを京都の料亭に送っています。

**■里地里山を守り活かし楽しむ会**
ヘイケボタルの棲む田んぼで古代米の栽培を行います。種まきからはじめ、育った苗の田植え、田の草取り、稲の成長の観察をし、秋には稲刈り、12月には古代米の餅つきとしめ縄づくりを行っています。

## 放置山林の復旧と活用

養成講座　竹林間伐

山林も木材不況やクヌギ・コナラの利用激減により、管理放棄が進んでいます。山への進入路を復活させ、間伐、不要な竹樹木の除去により日光が射し込み、山野草の生育を助けます。伐採したクヌギ・コナラ等を利用して、炭焼きやキノコ栽培をしています。

養成講座　刈払機の講習

**■ビオトープづくり**
2007年に地元の親子に呼びかけてビオトープづくりを始め、2008年から「みんなでいかそうビオトープ」の活動を開始。2012年からは三谷の生き物調査とともに、生き物を子どもたちが図鑑に描く「三谷生き物図鑑づくり」の活動を開始しました。

**■竹工作等を出展**
平城京天平祭・大和川源流体験ツアーに、竹工作等を出展、川上村森と水の源流館との交流など市外とのつながりも大切にしています。

**■里山保全ボランティア養成講座**
里山に関心のある方が一人でも多く、ボランティア活動に参加してもらえるように、里山保全にかかる知識と技能の習得を目的とした講座を開講しました。奈良森林インストラクター会所属の森林インストラクターに講師をお願いしスタートしました。第1回の修了者は17人でした。

**■花の宴、里山自然体験**
珍しい山野草やホタルなどの動植物、そして里山の景観に触れながら、里山の自然を楽しんでいただいています。

# 天理市　田井庄池公園再整備

## 天理市の新しいコミュニティースポット

### 公園整備が駅周辺を活気づける

天理駅西側にある田井庄池公園は、都市公園として昭和47年に整備され、ロボットの形をした大きなすべり台があることから「ロボット公園」と呼ばれ親しまれてきました。公園内には本物の蒸気機関車が展示されており、また駅から近いこともあり園内の通路は多くの市民が行き来します。この公園が平成26年より進められた天理駅周辺の整備計画において再整備されたのです。

駅の正面になる東側は、天理教本部へと抜ける商店街もあり駅前広場の整備を行いましたが、西側にも人気のお店やスポットがあることから公園の再整備は西側の活性化にもつながる大きな意味があったといいます。

着工前

施工中

### より愛される公園づくり

再整備に際し〝健康づくりの場にもしてほしい〟という声が数多く出たといいます。そこでまず公園にある池の周囲に一周250mの遊歩道をつくり、歩行距離がわかるよう路面に○○メートルとペイントしました。また、池に面したベンチや芝生広場の設置、成長しすぎた樹木の伐採や照明の増設により、安全で楽しめる憩いの場へ様変わりしました。今では高齢者が散歩や趣味を楽しんだり、若者がサークル活動を行ったり、お母さんと子供さんたちの集う場になったり、学生が遊歩道をジョギングしたりするだけでなく、仕事帰りの社会人がベンチで休憩して家路についたりと各々が公園を楽しむ姿が見られるようになり、更に公園に花を植えたいというボランティアの声も出るようになったといい、より愛される公園づくりに手応えを感じたといいます。

### 更なる公園づくりへ

多くの市民が公園を訪れますが、公園のシンボルでもあるロボット形すべり台のリニューアルはこれからといいます。この遊具は日本中でも数基しかなく、今後塗装の更新（色の塗り替え）などを行うそうです。また、地元の方の要望も反映しきれていないため、市民と共に更なる公園づくりに取り組んでいきたいといいます。

### 街が活気づいているのがわかります

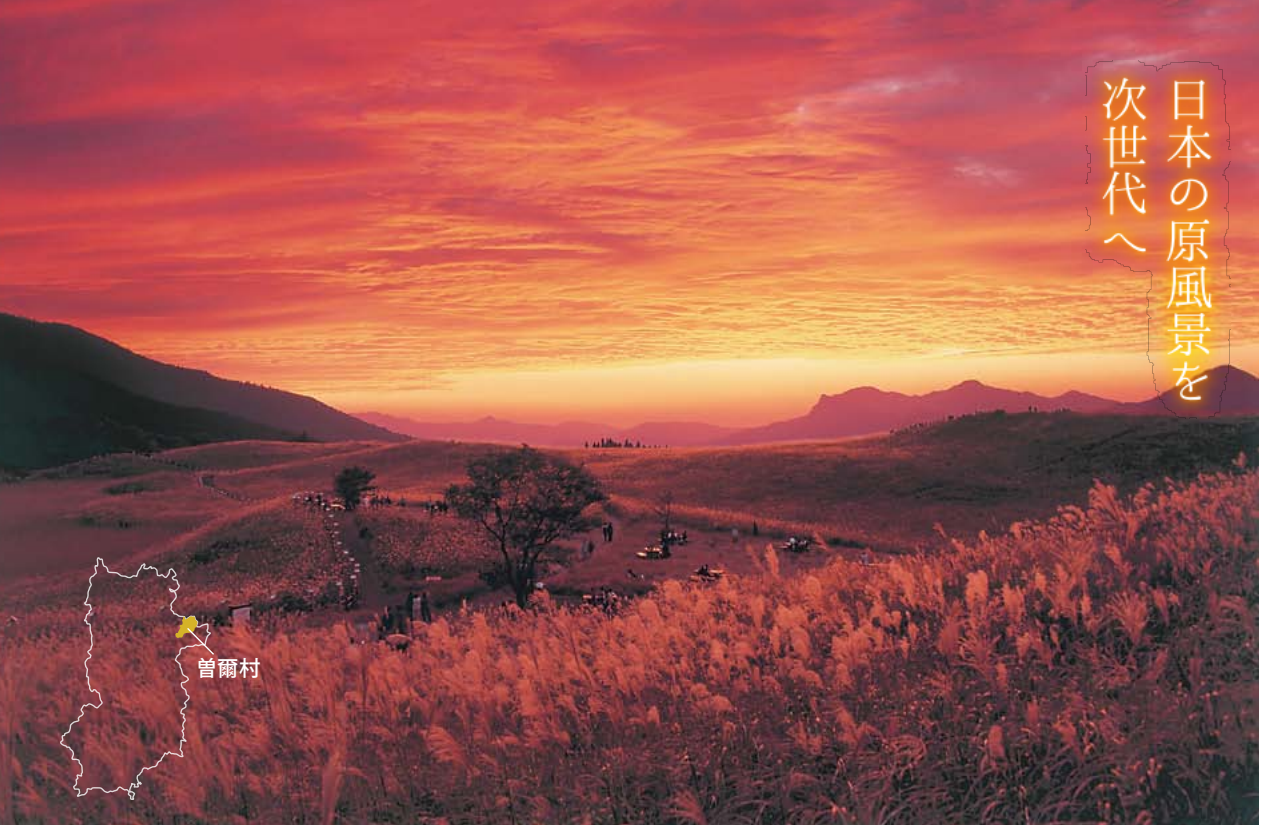
街の賑わいの場となりつつある田井庄池公園。天理市はSNSで公園をPRしたり、年末年始の期間に30万個もの電球を使ったイルミネーションで装飾するなど、公園の認知度UPや市外からも来てもらえるような取り組みを展開しています。更に公園内に桜の木が多くあることから桜の季節にイベントができないかと地元から声が上がるなど公園を中心に街が活気づいているのがわかるといい、これからもコミュニケーションがひろがる公園にしたいとのことです。

公園内に展示されているD51

桜の時期の公園

# 曽爾高原ススキ景観向上の取り組み

## 日本の原風景を次世代へ




秋の曽爾高原夕景　「奈良県景観資産」より

### 秋に輝く世界に今、起こっていること

秋の曽爾高原を彩るススキ。特に黄金色に輝き揺れる夕暮れは、ここにしかない美しさがあります。

しかし近年ススキの丈が低くなる等、植生の衰退が顕著になったことから、奈良県は平成26年にススキの保全に関する調査を実施しました。

衰退の原因の特定には至らなかったといいますが、人の立ち入りによる踏圧の影響が大きいと推測できました。実際、遊歩道付近や緩傾斜地のススキが特に弱っており、これらが写真撮影や山菜採り等による立ち入りを想像させるのです。

### 課題に取り組む難しさ

曽爾高原は県有地ですが管理は古くから同高原と関わってきた曽爾村が担い、ススキに代表される美しい風景が楽しめる県内有数の観光スポットとして年間40～50万人が訪れます。そうしたことから人の立ち入り防止対策は大きな課題ですが、同高原は自然公園に指定されており保護との兼ね合いから、やたらに人工物を設置する等人為的に手を加えることが難しく、今後もススキを守るための試行錯誤が続くといいます。

### 「気持ちの誘導」でススキや自然を守る

平成26年の調査を踏まえ、奈良県では平成27～29年度の3年間で立ち入りやすい場所に優先順位を付けて景観に配慮した侵入防止柵を2㎞・立入禁止看板を3ヶ所設置、また遊歩道を進むと出てくる小高い丘2ヶ所に「夕景テラス」としてベンチがある眺望スポットを整備し、テラスから風景を楽しんだり写真撮影してもらうようにしたといいます。

毎年3月中旬に行われる曽爾高原山焼き

これらの取り組みで考えたことは「気持ちの誘導」だといいます。これらの対策で人の立ち入りを完全になくすことは難しいですが「立ち入ってはいけない」という気持ちを持っていただくようにしたのです。また曽爾村においても誘導員を独自に配置し、曽爾高原を守る動きを強めているといいます。

夕景テラス

立入禁止看板

### どんな策を講じても、最後は「気持ち」

自然に親しみを感じる場所なので、人の配置や人工物の設置は避けたいのですが、自然の美しい風景を守ることを考えた時、まだそれらに頼らざるを得ないのが現状といいます。必要であり大切なのは、それらがなくても「いつまでもこの自然を残したい」という一人ひとりの気持ちなのです。

現在は、裸地になっていた場所が部分的に回復してきた兆候が見られるものの、植生は1年や2年で回復するものではないため、今後もじっくり向き合いながら、より人と自然の融和につながる取り組みをしたいとのことです。

## 奈良県景観資産のご紹介

### 奈良県景観資産を訪れてみませんか？

県内の素晴らしい景観、守りたい景観を、テーマを定めて一般公募の上審査し、161点を奈良県景観資産として登録しています。奈良県ホームページ「奈良県景観資産総合案内所」をご覧になり、お出かけ先にぜひご検討ください。

**http://www.pref.nara.jp/keikan_shisan/**

日本三大山城　高取城跡

三峰山の霧氷

## 奈良県立民俗博物館　行事のご案内

**常設展・企画展・特別展・季節展**

**常設展「大和のくらし」（稲作・茶業・林業・昔のくらし）**

明治150年記念特別展
くらしから読み解く明治150年
10/6土～12/16日
展示解説 10/7日 11/25日

季節展　ひなまつり
ー人形たちの宴ー
2/23土～3/24日
展示解説 2/24日 3/2土

**その他展示**

昔のくらし関連展
子どものくらし
ーあそびとまなびー
開催中～1/27日

玄関ホール写真展
私がとらえた大和の民俗
ー火ー
10/27土～12/16日

コーナー展
冬のくらしとあたたまる道具
12/8土～2/24日

コーナー展
桶と篭
3/16土～4/21日

**ワークショップ・講演会など**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10/14日 | つくろう！あそぼう！昔のおもちゃ | 要申込 | 無　料 | 定員20名 |
| 10/20土 | 昔のくらし体験① 昔のあかり＆秋の夜のおはなし会 | 要申込 | 無　料 | 定員20名 |
| 11/10土11日 | 第５回 なら民博ふるさとフェスタ | | | |
| 11/11日 | 明治150年記念講演会「明治維新と奈良の祭り―おん祭・村落祭祀の近代―」<br>天理大学文学部教授　幡鎌一弘 氏 | 要申込 | 無　料 | |
| 12/9日 | 写真展関連イベント 写真家座談会 | 申込不要 | 無　料 | |
| 12/23日祝 | 里山のお正月かざり | 要申込 | 無　料 | 定員20名 |
| 12/24月祝 | 昔のくらし体験② 掃除 | 申込不要 | 無　料 | 数量限定 |
| 1/5土6日 | 新春お正月あそび＆体験！火をつかう道具 | 申込不要 | 無　料 | |
| 1/14月祝 | 昔のくらし体験③ 炭火アイロン | 要申込 | 無　料 | 定員30名 |
| 2/16土17日 | 春の子どもワークショップまつり | 申込不要 | 一部有料 | 数量限定 |
| 3/3日 | 早春おはなし会 ―おひなさまの前で― | 申込不要 | 無　料 | |
| 3/23土 | 昔のくらし体験④ かまど | 要申込 | 有　料 | 定員10名 |

**古民家**

大和の民家15棟（うち重要文化財3棟・県指定文化財10棟）

古民家でひなまつり 2／16土～3／3日

※イベントの開催時刻や募集時期などは、博物館のホームページ等をご覧ください。
※お申し込みが必要なイベントにつきましては、当館窓口、電話のいずれかでお申し込みください。
※やむをえない事情により行事の内容を変更する場合がございます。ご了承ください。

つくる　みる・きく　ふれる

### はたおり実演　毎月第４日曜

各日10:30～15:30
（休憩12:00～13:00）
※天候等でやむを得ず中止する場合や、開始時間が変更になる場合があります。詳しくは、博物館へお問い合わせください。

### メルマガのご案内

博物館の展示やイベントの情報を毎月１日にお届けしております。
配信のご登録（無料）は、右のＱＲコードか、博物館ホームページからお願いします。
（ドメインは「@publisher.mag2」）

### 奈良県立民俗博物館

〒639-1058 大和郡山市矢田町545番地
TEL：0743-53-3171
FAX：0743-53-3173
URL：http://www.pref.nara.jp/1508.htm


**きれいに暮らす**
**奈良県スタイルジャーナル**
**第６号**

2018年10月発行

奈良県植栽計画
「なら四季彩の庭」
http://www3.pref.nara.jp/syokusai/

発行
奈良県くらし創造部
景観・環境局 環境政策課
〒630-8501 奈良市登大路町30
TEL：0742-27-8732 FAX：0742-22-1668


奈良県エコキャラクター
「な～らちゃん」